

な る ほ ど 経 済 指 標

景気動向指数

検索

発表機関:内閣府(速報値は毎月第5営業日頃発表)

経済の変動の中には、数年を周期として起こる「景気変動」があり、拡張と後退を繰り返しています。企業経営や経済運営においては、この景気変動、とりわけ景気の転換点を知ることが重要であると考えられます。今回は、そうした景気変動を把握するために作成されている「景気動向指数」について解説します。

1. 景気変動について

景気変動には、経済社会の活動が活発となり人手不足が生じるような「拡張期」、経済社会の活動が停滞して失業が増加するような「後退期」がみられます。景気変動は、拡張期と後退期が交互に現れ、数年を周期として繰り返すので、景気循環とも呼ばれます。

景気変動の把握、特に「拡張期から後退期へ」「後退期から拡張期へ」の変化時期(景気の転換点)の把握は、民間企業が設備投資のタイミングを判断したり、政府が必要な経済対策を検討したりするうえで、非常に重要であると考えられます。

2. 景気動向指数とは

景気動向指数は、生産、雇用、消費などの様々な経済活動において重要かつ景気に敏感に反応する指標の動きを統合することにより、そうした景気変動を捉えるために作成されている指標です。実際、景気動向指数の中で、景気に対し先行して動く「先行指数」は12の指標、ほぼ一致して動く「一致指数」は11の指標、遅れて動く「遅行指数」は6の指標から算定されています。なお、先行指数は、一般的に、一致指数に数ヶ月先行するため、景気の動きを予測する目的で利用されます。

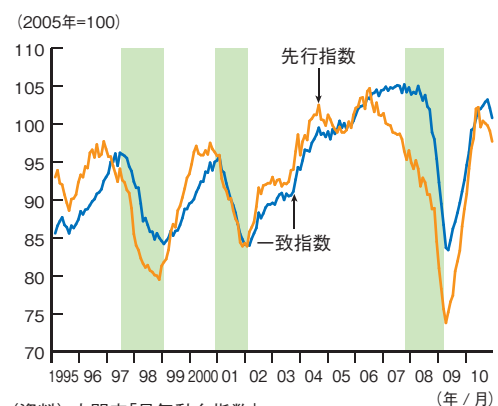
このほか、景気動向指数には、景気の方性を示すDI(ディフュージョン・インデックス)と景気変動の相対的な大きさやテンポを表すCI(コンジット・インデックス)とがあります。従来、景気

動向指数はDIを中心に公表されてきたものの、近年は、景気変動の大きさやテンポの把握が重要になっているため、CIを中心に公表されています。

3. 景気動向指数(CI)の動向

最近の景気動向指数(CI)の動きをみると(図表)、一致指数が2007年9月から低下傾向を辿った一方で、先行指数は2006年6月から右肩下がりで推移しました。

図表 景気動向指数(CI)の推移



2008年にかけて大幅に低下した両指数は、ともに2009年を通じて急回復したものの、先行指数は2010年5月から低下へと転じたほか、一致指数も2010年9月、10月と2ヶ月連続で低下しています。これを踏まえれば、わが国の景気は既に後退期入りした可能性もあり、今後についても景気動向指数の動きが注目されます。

馬場 基記